P-touch Template Manual

機種名　MW-145BT/MW-260/PJ-623/PJ-663

＜作成＞ ブラザー工業株式会社

対応モデル: MW-145BT/MW-260/PJ-623/PJ-663

ご注意

本資料は、お客様が直接対応モデルを制御される場合に必要な情報を提供するものです。
お客様が以下の内容にご同意いただいた場合のみ、本資料のご利用が可能です。もしご同意いただけない場合は、お客様は本資料をご利用いただけません。

ご利用条件

お客様は、お客様ご自身が対応モデルをご利用いただくため（以下「本目的」といいます）に必要な範囲においてのみ、本資料を使用し、複製することができるものとします。なお、お客様は次のことを行ってはならないものとします。

（1） 本目的以外の目的で本資料を複製すること
（2） 本資料を改変し、翻案・翻訳し、または第三者に再頒布すること
（3） 本資料を第三者に貸与・提供すること
（4） 本資料に含まれるブラザーの権利に関する表示を削除・改変すること

無保証

（a） 対応モデルおよび本資料のバージョンアップや修正等はブラザーが任意で行うものとし、お客様からの本資料の内容に関するお問い合わせまたはご要望に対しては一切応じかねます。
（b） ブラザーは本資料に関し、明示または黙示であるかを問わず、瑕疵がないこと、特定の目的に適合することを含め、その他いかなる保証も行いません。
（c） ブラザーは本資料および本資料に基づきお客様が作成したプログラムに起因して発生した直接的または間接的損害について、お客様に対し、いかなる責任も負わないものとします。

以上

【目次】

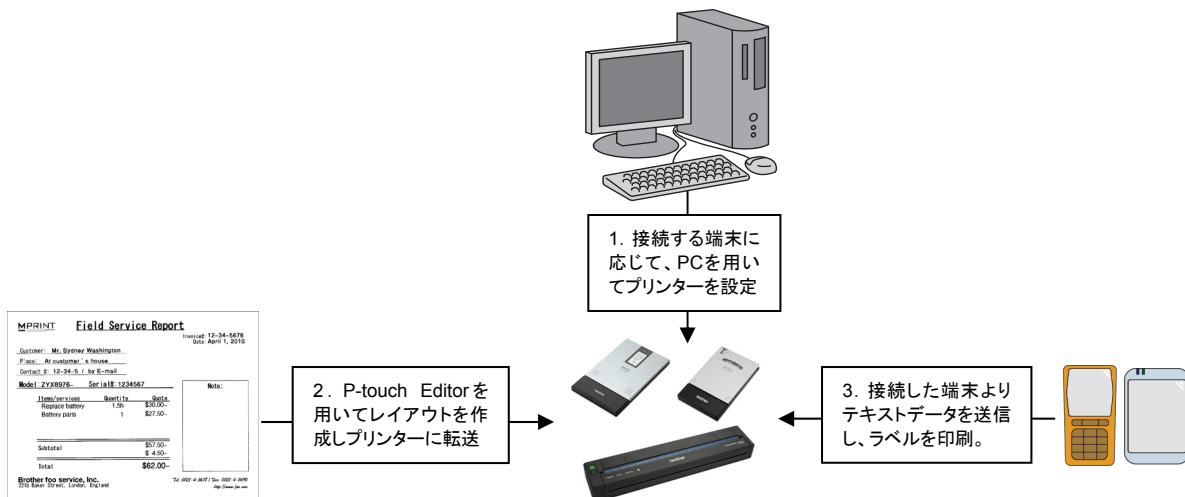
はじめに

本書は MW-145BT/MW-260/PJ-623/PJ-663 へ転送したレイアウトにデータを流し、PC 以外の端末を直接制御して印刷する方法が記されています。

本書は、お客様の開発環境におけるプログラミングに関しての知識がある方への説明書となっております。万一、本書を元にプログラムを開発したにもかかわらず、MW-145BT/MW-260/PJ-623/PJ-663及び、P-touch Templateを用いたシステムなどのデータが消えたり変化した場合、生じた損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求につきましても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。加えて、本書はいかなる請求の証拠にもなり得ませんので、あらかじめご了承ください。

また、本書の内容の一部または全部を無断で複写、転載することは禁じられています。

P-touch Templateとは？

P-touch Template とは、接続した端末より、送られてきたテキストデータを MW-145BT/MW-260/PJ-623/PJ-663 に保存しているレイアウトのテキストオブジェクト、バーコードオブジェクトに反映させることが出来るツールです。

P-touch Template はPC無しでの印刷を可能にし、また手間無く帳票等のデータのみを変更できるツールです。

接続が可能な端末は、下記の様なものです。

－スマートフォン

－ハンディターミナル　　　など

※　注意：

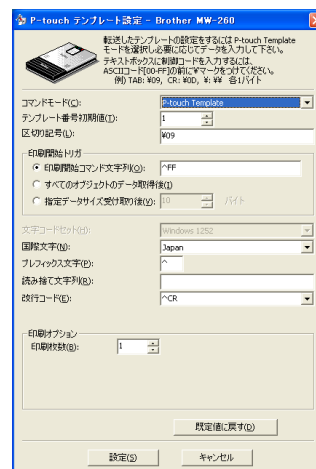
- 接続が可能な端末には、データを転送するためのインターフェイスが必要です。
- 端末によっては、データを転送できないものもございます。

P-touch Templateの使い方

1. プリンター本体設定

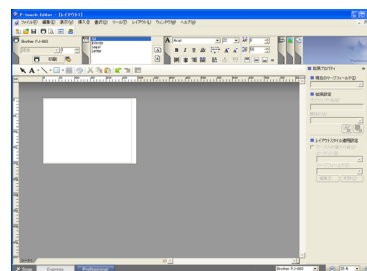
   MW-145BT/MW-260/PJ-623/PJ-663 の接続先の環境や接続端末に合わせて、「P-touch テンプレート設定」を作動させて、MW-145BT/MW-260/PJ-623/PJ-663 のプリンター本体をセットアップします。

   （本書の設定ツール説明書をご参照ください。）

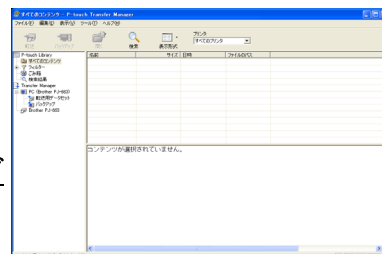
   *あらかじめ USB 接続によりプリンタードライバーをインストールしてください。

※プリンターのイメージ画像は
お使いのプリンターによって異なります。

2. レイアウトの作成

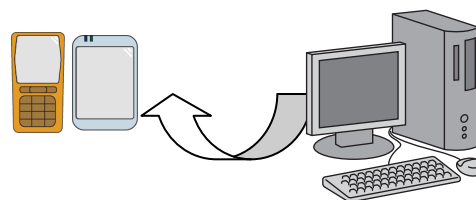
   P-touch Editor でプリンター本体に転送するレイアウトを作成します。

   （本書のP-touch Template 制限事項をご参照ください。）

3. レイアウトの転送

   P-touch Transfer Manager を使用して、レイアウトをプリンター本体に転送します。

   （MW-145BT/MW-260/PJ-623/PJ-663 のソフトウェアユーザーズガイドをご参照ください。）

4. P-touch Template コマンドによるプログラム

   プリンター本体を制御するために特別なコマンドが必要であれば、P-touch Template コマンドリファレンスに従って接続する端末のプログラムを変更してください。

   （本書のP-touch Templateコマンドリファレンスをご参照ください。）

5. 端末との接続から印刷

   接続する端末からテキストデータをプリンター本体へ送り、帳票等を印刷します。

設定ツール説明書

※プリンターのイメージ画像はお使いのプリンターによって異なります。

①コマンドモード選択

- P-touch Template モード
  P-touch テンプレートを使用する場合は、P-touch Template モードを選択する。
- ESC/P モード
- Raster モード

②テンプレート番号選択

電源ON時に、デフォルトで選択されるテンプレート番号を設定する。
ただし、プリンター本体に転送されていないテンプレート番号を設定することはできない。

③区切り記号設定

区切り記号とは、データの流し込み対象を、次のオブジェクトに移行する時に使う記号である。
1～20文字の文字列で設定する。

④印刷開始トリガ設定

印刷開始トリガを、以下の3つの中から1つ選択する。

- 印刷開始コマンド文字列受信時
  (⑤で設定した印刷開始コマンド文字列を受信した時、印刷を開始する。)
- 全てのオブジェクトが埋まった時
  (最終オブジェクトで、区切り記号を受信した時、印刷を開始する。)
- 設定されている文字数受信時
  (⑥で設定した文字数を受信した時、印刷を開始する。ただし、区切り記号は、文字数にカウントされない。)

⑤印刷開始コマンド文字列設定

1～20文字の文字列で設定する。

⑥印刷開始データ数設定

印刷開始データ数は、1～999 の値で設定が可能である。

⑦文字コードセット選択

選択不可。

⑧国際文字設定

各国別の文字セットを、以下から選択する。

- USA
- フランス
- ドイツ
- イギリス
- デンマーク
- スウェーデン
- イタリア
- スペイン
- 日本
- ノルウェー
- デンマークⅡ
- スペインⅡ
- ラテンアメリカ
- 韓国
- リーガル

上記選択の国により、以下の12コードが切り替わる。

23h 24h 40h 5Bh 5Ch 5Dh 5Eh 60h 7Bh 7Ch 7Dh 7Eh

切り替わる文字に関しては、P-touch Template Command 国際文字セット表参照のこと。

⑨プレフィックス文字設定

プレフィックス文字コードを変更する。1文字の文字コードで設定する。

プレフィックス文字とは、P-touch Template モードで使えるコマンドを識別するための先頭文字コードである。

⑩読み捨て文字列設定

ここで指定された文字列は、データ受信時に読み捨てられる。1～20文字の文字列で設定する。

⑪改行コード文字列設定

改行コードとは、データ流し込み時、以降のデータをテキストオブジェクト内の次の行に移動したいときに使うコードである。改行コードを以下の4つの選択肢から選択するか、1～20文字の文字列で設定する。

1．^CR

2．￥0D￥0A

3．￥0A

4．￥0D

⑫コピー枚数設定

コピー枚数を設定する。1～99枚まで設定可能である。

その他

・ini ファイル

[設定]ボタン（メイン画面または通信設定画面）をクリックした後、終了時に値を保存する。

（MW-145BT の場合）

C:¥Documents and Settings¥（ユーザアカウント名）¥Application Data¥Brother ¥Printer Settings¥Pts3532.ini

（MW-260 の場合）

C:¥Documents and Settings¥（ユーザアカウント名）¥Application Data¥Brother ¥Printer Settings¥Pts3432.ini

（PJ-623 の場合）

C:¥Documents and Settings¥（ユーザアカウント名）¥Application Data¥Brother ¥Printer Settings¥pts3236.ini

（PJ-663 の場合）

C:¥Documents and Settings¥（ユーザアカウント名）¥Application Data¥Brother ¥Printer Settings¥pts3436.ini

・テキストボックス③⑤⑨⑩への文字入力

テキストで入れられる文字はテキストで入力し、制御コードなどは、¥マークを前につけて ASCII コード[00 - FF]で入力ができる。

例；PRINT ；[PRINT]

TAB 制御コード；[¥09]

復帰制御コード；[¥0D]

¥ ；[¥¥]

P-touch Template 制限事項

■テキストオブジェクト関係

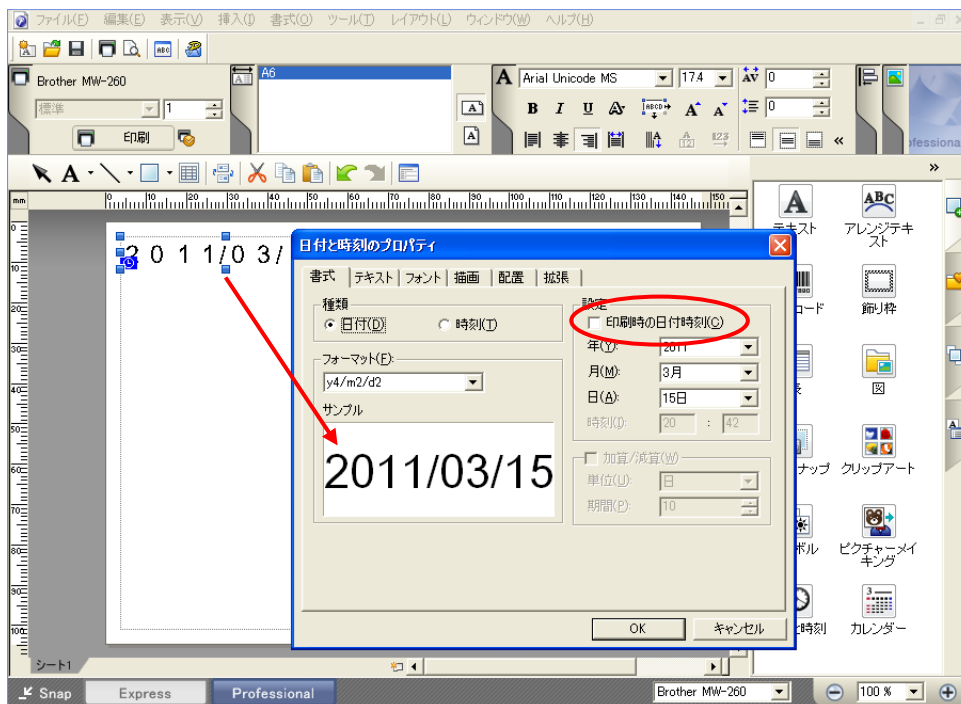
（本書のP-touch Editorの設定と本体イメージの相関表もご参照ください。）

・P-touch Editor で設定したフォントは、プリンター本体転送時、1バイトコードならばヘルシンキに、2バイトコードならゴシックに変換される。

・P-touch Editor で設定した文字サイズは、プリンター本体転送時、プリンター本体内蔵の近いサイズに変換される。

・P-touch Editor で設定した文字サイズは、オブジェクト内で全て同じサイズになる。

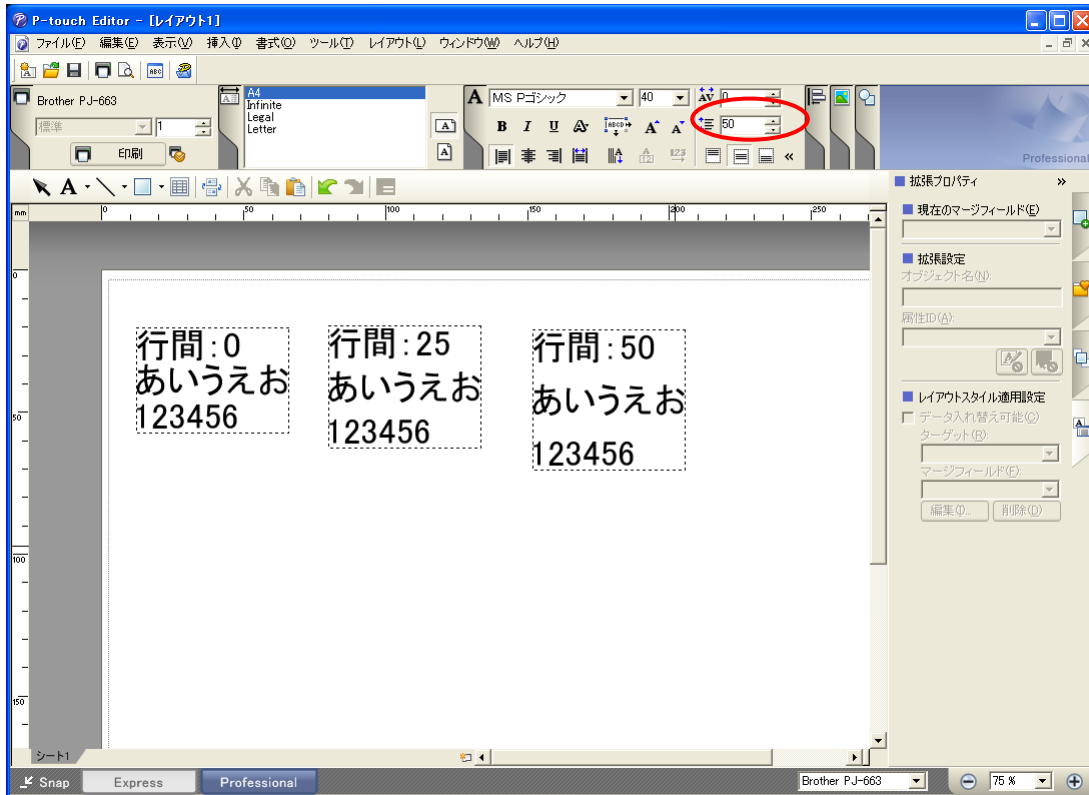
・P-touch Editor で設定したタイムスタンプは、「印刷時の日付時刻」設定有の場合、空白印刷され、「印刷時の日付時刻」設定無の場合、P-touch Editor で作成時の日時で印刷される。

＜「印刷時の日付時刻」の設定箇所＞

（P-touch Editor で、「日付と時刻のプロパティ」の「印刷時の日付時刻」の設定を解除するには、日付と時刻オブジェクトのプロパティを開き、「印刷時の日付時刻」チェックボックスを OFF にする。）

・P-touch Editor で設定した水平配置（“均等揃え”、“両端揃え”）設定は、左寄せに変換される。

・P-touch で設定した改行時の行間設定有効範囲は、0～255ドットである。

（P-touch Editor の行間設定は、マイナスの値を使用しないこと。また、プリンター本体の行幅に上限（約 21mm）があるため、P-touch Editor でそれより大きな行間設定を行ってもプリンター本体には反映されない。）

＜P-touch Editor での行間設定方法＞

・P-touch Editor で設定したナンバリング設定は、無効である。

（ナンバリング文字列は初期値として設定した文字列が、P-touch Template では印刷される。）

＜ナンバリングの初期値について＞

No.100

NUM

P-touch Editor 上で上図のナンバリングが設定されている場合、初期値は"100"となり、プリンター本体での印刷時もそのまま"No.100"と印刷されることになる。

・P-touch Editor で設定した文字装飾は、オブジェクト内で全て同じ装飾になる。

・P-touch Editor で設定したテキストオプションが、「長文」の時、垂直配置は、常に上寄せの位置に配置される。

・P-touch Editor で設定したテキストオプションの「テキストを折り返す」は、オブジェクトサイズが固定で文字は縮小される。

（「テキストを折り返す」はもともと長い文章を挿入するために追加されたモードであり、「テキストを折り返す」機能をなくしてしまうと極端に文字サイズが小さくなる可能性があるため、P-touch Editor では用紙が固定サイズまたは定長が設定されている場合は「枠サイズ固定」、用紙にオ

ート長が設定されているときは「自動長」を推奨する。）

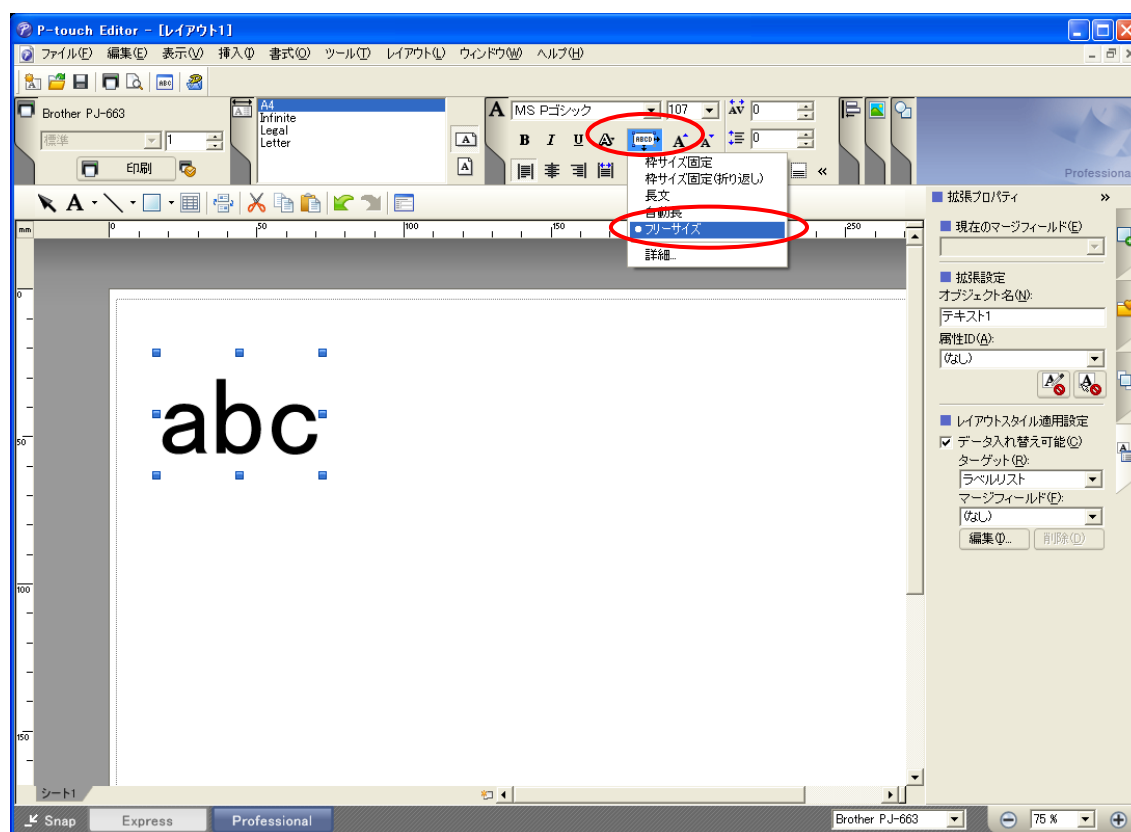
1.「縮小して全体を表示」: テキストオブジェクトサイズが固定になり、テキストサイズがテキスト長さにより変更される。

2.「はみ出した部分はクリップする」: テキストオブジェクトサイズ及びテキストサイズが固定になる。テキストが長い場合は、印刷されない。

3.「長文」: テキストオブジェクト幅とテキストサイズは固定である。テキストが長い場合には、自動的に改行し垂直方向にのびる。.

4.「自動長」: テキストオブジェクト高さとテキストサイズは、固定である。テキストが長い場合は、テキストオブジェクトの幅がのびる。

5.「フリーサイズ」: テキストサイズが固定である。テキストが長い場合は、テキストオブジェクトの幅がのびる。改行されたら垂直方向にのびる。

＜テキストオプション（文字の制御）の設定方法＞

赤丸で囲んだいずれかのコントロールをクリックすることで、選択肢がドロップダウンで表示され、その中から選択する。

■バーコード関係

●バーコード全体

・プリンター本体の対応していないバーコードを含むテンプレートを転送しようとすると、転送時にエラーになりプリンター本体に転送できない。
プリンター本体が対応しているバーコードは、以下のとおりである。
1次元バーコード
CODE39,I-2/5,UPC-A,UPC-E,EAN-13,EAN-8,CODE128, GS1-128（UCC/EAN-128）, CODABAR
2次元バーコード
PDF417、QR Code、Micro QR Code、DataMatrix

・バーコードオブジェクトにデータを流し込んだとき、規格外の文字があった場合は、そのバーコードオブジェクトは印刷されない。

・バーコードの大きさは、P-touch Editor からの印刷結果とは異なる場合がある。
CODE128/ GS1-128（UCC/EAN-128）は、大きめに印刷されやすいので、P-touch Editor でテンプレートを作成時に、余白を多めに入れることを推奨する。

・P-touch Editor で作成時のテンプレートより、データの流し込みで横幅の長いバーコードが出来た場合、途中で印刷が切れることがある。

・バーコードデータの直前、直後に改行を入れてはいけない。バーコードデータの一部とみなされ、改行コードも含んだバーコードが作成される、またはバーコード規格外のデータが入力されたとして、バーコード部分の印刷が空白になる。

・バーコードデータの直後は、区切り記号、もしくは印刷開始文字列をいれること。

●1次元バーコード

・P-touch Editor で設定した1次元バーコードの比率の設定は無効である。常に 3:1 に固定である。

・バーコードの高さの自動変換：
以下の高さ以上のバーコードを作成しても最大印字幅（ヘッド幅）に合わせて、以下のように変換される。
MW-260/PJ-623/PJ-663： 96mm 以上 → 96mm
MW-145BT ： 69mm 以上 → 69mm

・規格毎の入力文字数は以下の通りである。
CODE39 ： 1～50文字（両サイドの＊は含まれない）
I－2／5 ： 3～64文字
EAN－8 ： 7文字
EAN－13 ： 12文字
UPC－A ： 11文字
UPC－E ： 6文字

CODABAR　　：4～64文字（先頭と終了はA、B、C、Dのいずれか）

CODE128　　：1～64文字

GS1－128（UCC／EAN－128）：1～64文字

上記の範囲を超えて転送しようとすると、転送時にエラーになる。データの流し込みは、下限値に満たない場合は、印刷されない。上限値を超えた場合は、上限値までのデータを有効とする。ただし、64文字を超えた場合は、印刷されない。

・P-touch Editor でバーの高さが極端に低いバーコードのテンプレートを作成すると、バーが印刷されないことがある。

●CODE39

・データ流し込み時、データの先頭と最終の＊は読み飛ばす。

●GS1－128（UCC／EAN－128）／CODE128

・P-touch Editor で幅を極小に設定すると、下部文字設定に関わらず、下部文字は印刷されない。

●QR Code

・P-touch Editor で設定した QR Code のバージョン設定は無効である。バージョン設定は、OFFにすること。

・P-touch Editor で設定した連結設定は無効である。

●PDF417

・P-touch Editor で設定したPDF417のエラー訂正レベルは、プリンター本体と一致しないため、P-touch Template での印刷時に、バーコードの大きさが変わることがある。

・P-touch Editor で設定したPDF417の幅で、中は小に変換される。

・P-touch Editor で設定した連結設定は無効である。

●DataMatrix

・P-touch Editor で設定した連結設定は無効である。

・P-touch Editor で設定したマクロ設定は無効である。

■イメージ関係

・P-touch Editor で、イメージが重なり合ったテンプレートを転送した場合、全てのイメージデータは重ねあわされる。（P-touch Editor はデフォルトでは後で作ったものが上に表示される。）

■その他

・最大転送テンプレート数は99個である。ただし転送容量が以下を超えた時点で転送できなくなる。

MW-145BT/MW-260 の場合　：　512KB

PJ-623/PJ-663 の場合　：　5888KB

・1テンプレートの最大オブジェクト数は以下のとおりである。それを超えた場合、プリンター本体に転送しようとしたときにエラーとなり転送できない。

MW-145BT/MW-260 の場合　：　50個

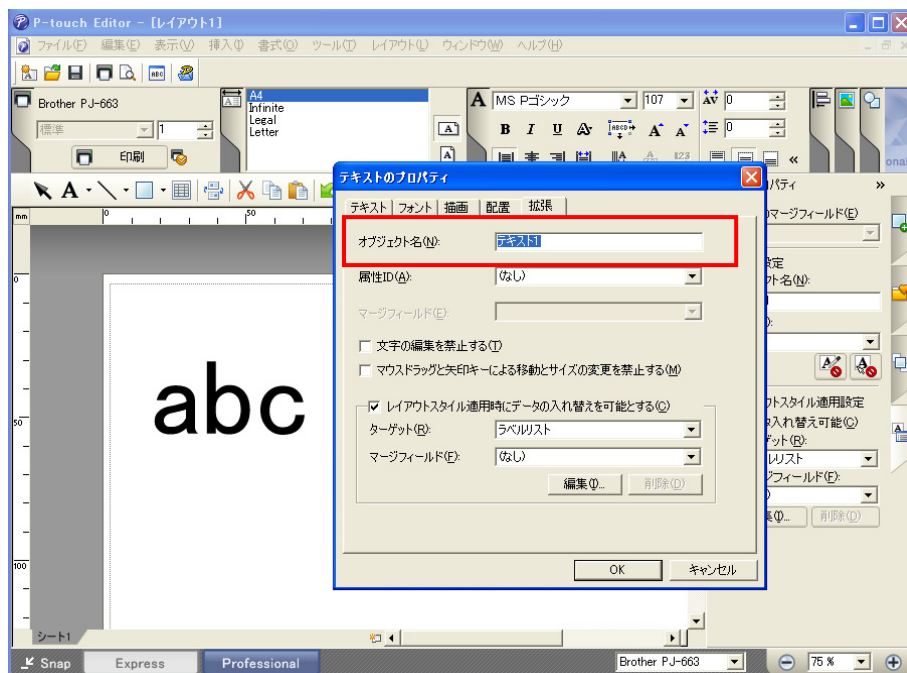
PJ-623/PJ-663 の場合　：　200個

・1テンプレート内のトータル行数（テキストの行数）の最大値は1000行である。これを超えた場合は、印刷時にエラーになる。

・印刷データの改行コード（0D0A、0D、0A）は読み捨てる。ただし、区切り記号や印刷開始文字列、改行コマンドなど、特別なデータ列として設定された場合はそれらに従う。

・オブジェクトの順番は、オブジェクト名の下位から4ケタ分の数字のみ有効として、順番が決定される。数字がない場合は、一番最後の順番になる。同じ番号の場合は、テキスト、1次元バーコード、2次元バーコードの優先順位で番号を決定し、オブジェクトも同じ場合は、その中で最初に作ったものを先の順番にする。順番を示す数字をオブジェクト名の後ろに入れることを推奨する。

（P-touch Editor でオブジェクト名を設定するには、テキストおよびバーコード各オブジェクトのプロパティを表示し、拡張タブのオブジェクト名で名前を設定する。）

＜オブジェクト名の設定箇所＞

・印刷データを流し込む場合は、コマンドモードを、P-touch Template モードにすること。
・プリンター本体にテンプレートを転送すると、動的コマンドで設定した値は、全て初期化される。
・印刷開始トリガーを、“全てのオブジェクトが埋まったとき”に設定時でも、印刷開始文字列を受信すると、印刷を開始する。
・P-touh Editor から印刷した後、コマンドモードは、ESC/P モード・ラスターモード（MW-145BT/MW-260 の場合はラスターモード）になる。テンプレート印刷を行うには、プリンター本体設定ツールで P-touch Template モードにするか、直前のモードが、プリンター本体設定ツールで P-touch Template モードにしていたならば、電源 OFF/ON すれば、P-touch Template モードに戻る。

注意事項

静的コマンドは、以下のモードでしか有効にならない。

MW-145BT/MW-260 の場合　　：ラスターモード
PJ-623/PJ-663 の場合　　：メンテナンスモード

【例：テンプレート選択番号を、静的に10番に変更したい場合。】

1)ラスターモード(PJ-623/PJ-663 の場合はメンテナンスモード)に切り替え。
ESC i a 01h(1Bh 69h 61h 01h)
2)テンプレート番号を10番にする。
ESC i X n 2 01h 00h 0Ah
(1Bh 69h 58h 6Eh 32h 01h 00h 0Ah)
3)動的に、P-touch Template モードにする。
ESC i a 03h(1Bh 69h 61h 03h)

Bluetooth 使用時の注意点(MW-145BT/MW-260/PJ-663 のみ)

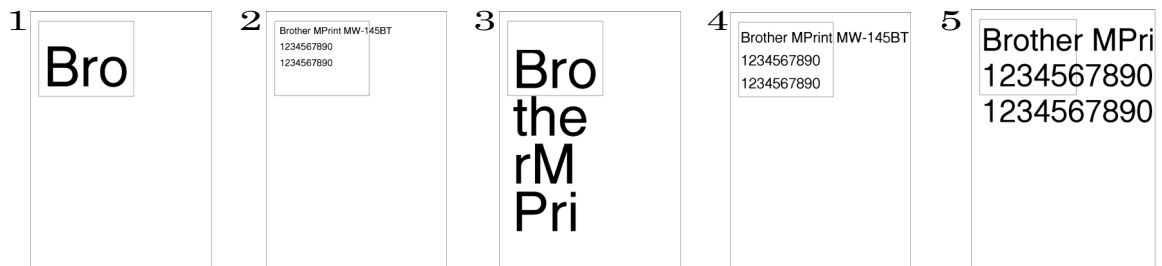
Bluetooth で接続する場合、ポートをオープンした直後は、プリンターの準備が整っていないことがあります。印刷データを送る場合、ポートオープン後に 500msec 以上待ってから、データを送り始めてください。

また、複数ページの印刷をする場合などで、ポートのクローズとオープンが連続して行なわれる場合には、ポートをクローズした後に 500msec 以上待って次のポートオープンを行ってください。

1 ページ分の印刷データを送信後印刷が完了するまで Bluetooth ポートは閉じないでください。印刷完了後、プリンターから 32 バイトの返信がありますのでホスト側で受信した後、ポートをクローズしてください。

P-touch Editor の設定と本体イメージの相関表

<table>
<tr><th colspan="3">P-touch Editorの設定
テキストオプション（文字の制御）</th><th colspan="4">本体イメージ</th><th rowspan="3">印刷
イメージ</th></tr>
<tr><th colspan="3"></th><th colspan="2">横</th><th colspan="2">縦</th></tr>
<tr><th>制御モード</th><th>詳細-
文字の制御</th><th>テキストを
折り返す</th><th>オブジェクトサイズ</th><th>文字サイズ</th><th>オブジェクトサイズ</th><th>文字サイズ</th></tr>
<tr><td rowspan="4">枠サイズ
固定</td><td>はみ出した
部分は
クリップする</td><td></td><td>固定
オブジェクトサイズの
横からはみ出た文字は
印刷しない</td><td>固定</td><td>固定
オブジェクトサイズの
縦からはみ出た文字は
印刷しない</td><td>固定</td><td>1
（下記参照）</td></tr>
<tr><td>縮小して
全体を
表示する</td><td></td><td rowspan="4">固定
最小サイズの場合
横方向はみ出る</td><td rowspan="4">オート
オブジェクト
サイズに
合わせて
文字サイズを
最大サイズ
に調整する</td><td rowspan="4">固定
最小サイズの場合
縦方向はみ出る</td><td rowspan="4">オート
オブジェクト
サイズに
合わせて
文字サイズを
最大サイズ
に調整する</td><td rowspan="4">2
（下記参照）</td></tr>
<tr><td>はみ出した
部分は
クリップする</td><td>チェック</td></tr>
<tr><td>縮小して
全体を
表示する</td><td>チェック</td></tr>
<tr><td>枠サイズ
固定
（折り返し）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>長文</td><td></td><td></td><td>固定
オブジェクトサイズの
横からはみ出た文字は
自動改行する</td><td>固定</td><td>オブジェクトサイズの
縦からはみ出た文字も
印刷する</td><td>固定</td><td>3
（下記参照）</td></tr>
<tr><td>自動長</td><td></td><td></td><td>オブジェクトサイズの
横からはみ出た文字も
印刷する</td><td>固定</td><td>固定
最小サイズの場合
縦方向はみ出る</td><td>オート
オブジェクト
サイズに
合わせて
文字サイズを
最大サイズ
に調整する</td><td>4
（下記参照）</td></tr>
<tr><td>フリー
サイズ</td><td></td><td></td><td>オブジェクトサイズの
横からはみ出た文字も
印刷する</td><td>固定</td><td>オブジェクトサイズの
縦からはみ出た文字も
印刷する</td><td>固定</td><td>5
（下記参照）</td></tr>
</table>

印刷イメージ

印刷までの時間を速くするテンプレートの作成方法

●変更しないオブジェクトは下記の手順でイメージにしてください。

・「Text のプロパティ」−「拡張」−「文字の編集を禁止する」をチェックするとオブジェクトがイメージになります。

・「Text のプロパティ」−「拡張」がない場合は、「ツール」−「オプション」−「全般」−「その他」−「オブジェクトのプロパティで拡張ページを表示」をチェックしてください。

●文字サイズが固定になるように、テキストオプション（文字の制御）を設定してください。

<u>付録:仕様</u>

BROTHER MW-145BT/MW-260/PJ-623/PJ-663 P-touch Template 仕様

	印刷モード		（MW-145BT/MW-260） Raster(PTCBP モード) ESC/P モード P-touch Template モード	（PJ-623/PJ-663） Raster モード ESC/P モード P-touch Template モード メンテナンスモード
	解像度 (dpi)		300dpi × 300dpi	
	テキスト	フォント	ビットマップフォント: ゴシック、ヘルシンキ アウトラインフォント: ゴシック、ヘルシンキ	
		サイズ(ドット)	ビットマップフォント: 16x16, 24 x 24, 32 x 32 ドット アウトラインフォント: 33 - 400 ドット	
		文字スタイル	なし, ボールド, イタリック, アウトライン, シャドウ, シャドウ＋アウトライン	
		水平位置	左寄せ, 中寄せ, 右寄せ	
		回転	垂直, 水平	
	バーコード	規格 *1	CODE39, ITF(I-2/5), EAN-13, EAN-8, UPC-A, UPC-E, CODABAR, CODE128, GS1-128（UCC/EAN-128）, QR Code (model 1, model 2, micro QR), PDF417 (Standard, Truncate), DataMatrix (ECC200 Square, ECC200 Rectangular)	
		幅	大, 中, 小, 極小	

*1 BarStar Pro エンコードライブラリ(DataMatrix, PDF417)の著作権は、アイニックス株式会社にあります。

QR コードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

QR コード生成プログラム Copyright(C) 2008 DENSO WAVE INCORPORATED

P-touch Template Command Reference

Version　1.0.0版

機種名　PJ-623／PJ-663

＜作成＞　ブラザー工業株式会社　ソフトウェア第2開発部

使用許諾契約書

ブラザー工業株式会社

重要 ― 以下のソフトウェア使用許諾書を注意してお読みください。

本使用許諾契約書（以下「本契約書」といいます）は、ブラザー工業製モバイルプリンター製品「MPrint」シリーズ及び／又は「Pocket Jet」シリーズ（以下単に「MPrint プリンター」といいます）用ソフトウェア開発ツールおよび開発資料（以下「本ソフトウェア」といいます）に関して、あらかじめ弊社 WEB サイトに掲載の「MPrint&PocketJetSDK ユーザー登録フォーム」に真正な内容の必要事項を記入の上、ブラザー工業に提出することによって本ソフトウェアを入手されたお客様（個人または法人のいずれであるかを問いません。以下単に「お客様」といいます）と ブラザー工業株式会社(以下「ブラザー工業」といいます）との間に締結される法的な契約書です。本ソフトウェアは、コンピューター ソフトウェア コンポーネントならびにそれに関連した媒体、印刷物（マニュアルなどの文書)、サンプルプログラム、および「オンライン」または電子文書の全部もしくは一部を含みます。本ソフトウェアには、本契約書の修正条項または追加条項が付属している場合があります。本ソフトウェアをインストール、複製、または使用することによって、お客様は本契約書の条項に拘束されることに同意されたものとします。同意されない場合、ブラザー工業は、お客様に本ソフトウェアのインストール、使用または複製のいずれも許諾できません。

登録について
この契約はブラザー工業に対しあらかじめ上記方法にてユーザー登録を行うことによって本ソフトウェアを入手されたお客様に対してのみ成立するものであり、ブラザー工業は、それ以外の第三者（上記以外の方法で本ソフトウェアを入手された第三者を含む）については、お客様が本契約第２項 c.に
基づいて再使用許諾するエンドユーザーを除き、本ソフトウェアの使用を一切許諾致しません。
なお、登録内容に変更がある場合、お客様は速やかにブラザー工業に連絡するものとします。
ブラザー工業はお客様に登録して頂いた情報を社内およびその関連会社での管理、新製品開発のための資料、及びお客様との連絡以外の目的には使用しないことに同意致します。

１．権利の帰属

(a) 本ソフトウェアに関する一切の著作権その他の知的財産権は、ブラザー工業が留保致します。
(b) ブラザー工業は、本契約に明示されない事項については、本ソフトウェアについて何らお客様に権利を許諾致しません。

２．ライセンスの許諾

お客様が本契約書のすべての条項および条件を厳守する限り、ブラザー工業はお客様に対し以下の権利を非独占的に許諾します。

a. インストールおよび使用
お客様は、お客様の事業所１ヶ所内で MPrint プリンターに出力する目的にのみ、本ソフトウェアのコピーを１台若しくは複数台のコンピューターにインストール若しくは蓄積して使用することができます。かかるコンピューターにはネットワークサーバーも含まれますが、当該事業所外からダウンロード可能な場所にインストール若しくは蓄積することはできません。

ｂ．アプリケーションの開発；再頒布の権利
お客様は、MPrint プリンターに出力する機能を有するお客様のアプリケーション製品（以下、開発アプリ製品といいます）において、かかる出力機能を設計、開発、テストするために本ソフトウェアを使用することができます。お客様は、以下の条項を厳守する限り、本ソフトウェアの一部を複製および頒布する無償の権利を許諾されます。

ｃ．エンドユーザーに再使用許諾する権利
お客様は、本第２項ｄ号(c)乃至(i)を遵守することを条件として、お客様が本契約に基づき頒布する開発アプリ製品のエンドユーザーに対し、当該開発アプリ製品に組み込まれた本ソフトウェアの一部を、開発アプリ製品を使用するために必要最低限の範囲で、使用することを再許諾する権利を許諾致します。

ｄ．再頒布の条件

(a) お客様は、開発アプリ製品がMPrintプリンターに出力する機能を実現する（以下、頒布目的といいます）ために、本ソフトウェアのうち、 [Redist.txt]ファイルに一覧表示されたもの（以下、再頒布対象モジュールⅠといいます）を、ファイル、データに一切の変更なく、ブラザー工業から提供されたオリジナルの状態に限り、開発アプリ製品に組み込んで再頒布することができます。
(b) お客様は、前(a)号に加え、本ソフトウェアのうち、 [Redist2.txt]ファイルに一覧表示されたもの（以下、再頒布対象モジュールⅡといいます）を、自由に改変し、頒布目的のために開発アプリ製品に組み込んで再頒布することができます。
(c) お客様は、再頒布対象モジュールⅠ及び再頒布対象モジュールⅡ（以下これらを総称して再頒布対象モジュールといいます）以外の本ソフトウェアの全部若しくは一部を再頒布することはできません。
(d) お客様は、再頒布対象モジュールを開発アプリ製品に組み込まずに頒布することはできません。
(e) お客様は、再頒布対象モジュールⅡ以外の本件ソフトウェア（再頒布対象モジュールⅠを含みます）を改変することはできません。
(f) お客様は、開発アプリ製品の販売にあたり、ブラザー工業の書面による事前の承諾なくして、ブラザー工業に権利が帰属するロゴまたは商標（「ブラザー」・「brother」等）を使用することはできません。
(g) お客様は、再頒布対象モジュールを組み込んだ開発アプリ製品の動作画面、マニュアルその他関連資料中に、本ソフトウェアに含まれているすべての著作権表示をオリジナルに忠実な形態で表示しなければなりません。
(h) お客様は、再頒布対象モジュールを組み込んだ開発アプリ製品に本契約書のコピーを添付しなければなりません。
(i) お客様は、開発アプリ製品のエンドユーザーに対し、当該開発アプリ製品に関するエンドユーザーライセンス契約等により、本ソフトウェアの再頒布を明示的に禁止しなければなりません。

３. 追加のソフトウェア

本契約は、ブラザー工業が提供する本ソフトウェア・オリジナルのアップデートまたは追加製品に適用されます。但し、かかるアップデートまたは追加製品に別条項が適用される場合はこの限りではありません。

４. レンタル等の禁止

お客様は本ソフトウェアをレンタル、リース、貸与または譲渡することはできません。

５. リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルの制限

お客様は、本ソフトウェアをリバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブル、またはその他の方法で読み取り可能な形に変えたり、変更を加えたりすることはできません。但し再頒布対象モジュールⅡに関してはこの限りではありません。

６. 契約の終了

以下に該当する場合、ブラザー工業は、他の権利を害することなく本契約を終了することができます。そのような場合、お客様は本ソフトウェアおよびその複製物またはその構成部分を全て回収、破棄しなければなりません。
(a) お客様が本契約書の条項および条件に違反した場合。
(b) お客様よりブラザー工業に登録データの削除要求があった場合。
(c) お客様による登録内容に事実との不一致があった場合。
(d) その他両当事者間の合意による終了またはブラザー工業の判断により本契約を終了する旨の通知があった場合。

７. データの使用に関する承諾

お客様は、ブラザー工業およびその関連会社が、本ソフトウェアに関連したサポートサービスの一部として、お客様から提供された技術情報を収集して使用することを承諾するものとします。ただし、ブラザー工業はお客様を特定することとなるような方法でその技術情報を利用しないものとします。

８. 輸出規制

お客様は、本ソフトウェア（その一部も含む)を、日本国外に輸出または再輸出しないことに同意するものとします。

９．サポート

(a) 本ソフトウェアについて　本ソフトウェアに関するサポート（本ソフトウェアの機能・利用方法に関する問い合わせ、及び、本ソフトウェアを用いたプログラミングに関する問い合わせへの対応を含みます。以下本項において同じ）は、ブラザー工業が自らの任意で行います。本ソフトウェアに関し、ブラザー工業はお客様に対し、何らサポートの責任を負いません。

(b) 開発アプリ製品について　お客様は、開発アプリ製品のエンドユーザーに対し、その開発アプリ製品（これに組み込まれた再頒布対象モジュールを含みます）に関わる一切のサポートを行うものとし、ブラザー工業はお客様が作成した開発アプリ製品及びこれに組み込まれた再頒布対象モジュールに関し、エンドユーザーに対して何らサポートする責任を負いません。

１０．無保証

ブラザー工業は、本ソフトウェアおよびサポートサービス（該当する場合）を現状有姿のまま瑕疵を問わない条件で提供しています。そのため、本ソフトウェアの機能・品質についてブラザー工業はお客様に対し何らの保証も致しません。（本ソフトウェア若しくは開発アプリ製品が市販に耐え得る商品たり得ることや特定の目的に合致することも保証しません。また、本ソフトウェアの使用によりお客様のシステム・データが失われないことや使用結果が的確であることも保証しません。）さらに、本ソフトウェアの使用が第三者の特許権・実用新案権・意匠権・回路配置利用に関する権利を侵害しないことも保証致しません。

１１．損害に関する免責

(a) 本ソフトウェアについて　ブラザー工業は、本ソフトウェアの使用もしくは使用不能またはサポートサービスの利用に関連して生じるもしくはその結果として生ずる特別損害、付随的損害、間接損害、派生的損害、懲罰的損害またはその他の一切の損害（逸失利益、情報の喪失、事業の中断、人身障害、誠実または合理的な注意義務を含めた義務の不履行、過失、またはその他の金銭的もしくはその他の損失を含みますがこれらに限定されません）に関して一切責任を負いません。

(b) 開発アプリ製品について　お客様は、開発アプリ製品（これに組み込まれた再頒布対象モジュールも含みます）の使用または頒布により生じるまたはその結果として生ずる紛争または訴訟(弁護士費用も含みます)について、ブラザー工業を免責、補償および防御するものとします。

１２．ダウンロードサイト移転・削除

本ソフトウェアが Web ページにより頒布される場合、ブラザー工業はその判断によりいつでも、本ソフトウェアのダウンロードを削除する権利およびダウンロード用 Web ページを変更、移動、または削除する権利を留保します。

１３．準拠法

本契約は、日本国法に準拠するものとします。

【目次】

制御コード一覧

P-touch Templateモードで、設定、取得可能なコマンド

^PT	5E 50 54	動的	印刷開始トリガー選択
^PS	5E 50 53	動的	印刷開始コマンド文字列設定
^PC	5E 50 43	動的	印刷開始受信文字数設定
^SS	5E 53 53	動的	区切り記号指定
^TS	5E 54 53	動的	テンプレート選択
^LS	5E 4C 53		改行時の行間設定
^CC	5E 43 43	動的	プレフィックス文字変更
^RC	5E 52 43	動的	改行コマンド文字列設定
^CN	5E 43 4E		コピー印刷枚数設定
^II	5E 49 49		初期化
^SR	5E 53 52		ステータスリクエスト
^VR	5E 56 52		バージョン情報取得
^CR	5E 43 52		オブジェクト内での改行
^OS	5E 4F 53		オブジェクト選択設定（オブジェクト番号）
^ON	5E 4F 4E		オブジェクト選択設定（オブジェクト名）
^DI	5E 44 49		オブジェクト直接挿入
ESC ia	1B 69 61	動的	コマンドモード設定

※上記コマンドは、P-touch Template モードにて、使用すること。
メンテナンスモード、ラスターモードおよび、ESC/P モードでは使用できない。
（ESC ia を除く）

メンテナンスモードで、設定、取得可能なコマンド

ESC iXT2	1B 69 58 54 32	静的	印刷開始トリガー選択
ESC iXP2	1B 69 58 50 32	静的	印刷開始コマンド文字列設定
ESC iXr2	1B 69 58 72 32	静的	印刷開始受信文字数設定
ESC iXD2	1B 69 58 44 32	静的	区切り記号指定
ESC iXa2	1B 69 58 61 32	静的	読み捨て文字列設定
ESC iXi2	1B 69 58 69 32	静的	コマンドモード設定
ESC iXn2	1B 69 58 6E 32	静的	テンプレート選択
ESC iXf2	1B 69 58 66 32	静的	プレフィックス文字変更
ESC iXj2	1B 69 58 6A 32	静的	国際文字設定
ESC iXR2	1B 69 58 52 32	静的	改行コマンド文字列設定
ESC iXC2	1B 69 58 43 32	静的	コピー印刷枚数設定
ESC iXT1	1B 69 58 54 31		印刷開始トリガー選択項目取得
ESC iXP1	1B 69 58 50 31		印刷開始コマンド設定文字列取得
ESC iXr1	1B 69 58 72 31		印刷開始受信文字数取得
ESC iXD1	1B 69 58 44 31		区切り記号取得
ESC iXa1	1B 69 58 61 31		読み捨て文字列取得
ESC iXi1	1B 69 58 69 31		コマンドモード取得
ESC iXn1	1B 69 58 6E 31		テンプレート選択番号取得
ESC iXj1	1B 69 58 6A 31		国際文字設定値取得
ESC iXf1	1B 69 58 66 31		プレフィックス設定文字取得
ESC iXR1	1B 69 58 52 31		改行コマンド設定文字列取得
ESC iXC1	1B 69 58 43 31		コピー印刷枚数設定値取得

※ 上記コマンドは、メンテナンスモードにて、使用すること。
ラスターモード、ESC/P モードおよび、P-touch Template モードでは使用できない。

P-touch Templateとは

P-touch Editor から、予め本体に転送してあるテンプレートに対して、ホストから、データを流し込み、印刷をするものである。

P-touch Template のコマンド（P-touch Template モードで使用するコマンド）は、プレフィックス文字＋２文字の文字列の構成になっている。（ただし、ESC ia を除く）

プレフィックス文字を転送すると本体は、P-touch Template のコマンド解析を開始し、以下２文字の文字列がコマンドに該当すれば、指定の処理を行う。

静的コマンド、動的コマンド

静的コマンドとは、その設定コマンドで設定した項目は、保存され記憶される。

動的コマンドとは、その設定コマンドで設定した項目は、一時的に保存され、電源をＯＦＦするまで有効になる。

印刷が開始されない場合（よくある主な原因）

１）コマンドモードが、P-touch Template モードになっていない。

２）印刷開始トリガーの条件を満たしていない。

印刷開始トリガーは、下記の３つの種類があるが、この選択があっていない。

①設定されている文字列受信時

②全てのオブジェクトが埋まったとき

③設定されている文字数受信時

上記設定があっていないときは、本体設定ツールを使って設定をする。

制御コマンド詳細

＾ＰＴ 印刷開始トリガー選択の設定

【ＡＳＣＩＩ】	＾	Ｐ	Ｔ	ｎ
【１０進】	９４	８０	８４	ｎｄ
【１６進】	５Ｅ	５０	５４	ｎｈ
【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】	１≦ｎ≦３			

【解説】

・印刷開始トリガーの種類を選択する。

　ｎ＝１　：設定されている文字列受信時（デフォルト）

　ｎ＝２　：全てのオブジェクトが埋まったとき

　　　　　（最後のデータ後の区切り記号で印刷）

　ｎ＝３　：設定されている文字数受信時

　　　　　（区切り記号は、含まれない）

・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

・ｎが１～３以外の値の場合は無効になる。

【例】

・印刷開始トリガーを“全てのオブジェクトが埋まったとき”にする場合。

　＾　Ｐ　Ｔ　２（５Ｅｈ　５０ｈ　５４ｈ　３２ｈ）

＾ＰＳ 印刷開始コマンド文字列設定

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｐ　Ｓ　ｎ１　ｎ２　ｄａｔａ
【１０進】　９４　８０　８３　ｎｄ１　ｎｄ２　ｄａｔａｄ
【１６進】　5Ｅ　５０　５３　ｎｈ１　ｎｈ２　ｄａｔａｈ
【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　０≦ｎ１≦２
　０≦ｎ２≦９
　00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・印刷開始コマンドの文字列を設定する。
　（ｎ１＊１０）＋ｎ２　：文字列の長さ（１～２０まで設定可能）
　ｄａｔａ　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））
・印刷開始コマンドのデフォルト文字列は“＾ＦＦ”である。
・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

・印刷開始コマンド文字列を“START”に変えたい場合。
　設定する文字列（ｄａｔａ）は“START”と、5文字であるため、ｎ１＝０、ｎ２＝５である。コマンドは以下のようになる。
　＾　Ｐ　Ｓ　０　５　Ｓ　Ｔ　Ａ　Ｒ　Ｔ
（5Ｅｈ　５０ｈ　５３ｈ　３０ｈ　３５ｈ　５３ｈ　５４ｈ　４１ｈ　５２ｈ
　５４ｈ）

＾ＰＣ 印刷開始受信文字数設定

【ＡＳＣＩＩ】	＾	Ｐ	Ｃ	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	９４	８０	６７	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	5E	５０	４３	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３
【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】	０≦ｎ１≦９					
	０≦ｎ２≦９					
	０≦ｎ３≦９					

【解説】

・印刷開始受信文字数を設定する。

（ｎ１＊１００）＋（ｎ２＊１０）＋ｎ３　：印刷開始受信文字数
（１～９９９文字）

・印刷開始受信文字数のデフォルト値は１０である。

・このコマンドは、動的コマンドである。

・全角は２バイトで１文字、半角は１バイトで１文字扱いとする。

【例】

・印刷受信文字数を１００文字に変更する場合。ｎ１＝１、ｎ２＝０、ｎ３＝０になるため、コマンドは以下のようになる。

＾　Ｐ　Ｃ　１　０　０（5Ｅh　５０h　４３h　３１h　３０h　３０h）

ˆＳＳ 区切り記号指定

【ＡＳＣＩＩ】　ˆ　Ｓ　Ｓ　ｎ１　ｎ２　ｄａｔａ

【１０進】　９４　８３　８３　ｎｄ１　ｎｄ２　ｄａｔａｄ

【１６進】　５Ｅ　５３　５３　ｎｈ１　ｎｈ２　ｄａｔａｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　０≦ｎ１≦２

０≦ｎ２≦９

00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・区切り記号とは、データの流し込みを、次のオブジェクトに移行したいときに使う記号。

・区切り記号の文字列を設定する。

（ｎ１＊１０）＋ｎ２　：文字列の長さ（１～２０）

ｄａｔａ　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））

・区切り記号のデフォルト文字列は“09ｈ(TAB コード)”である。

・印刷データ内にでてくることがない文字列を設定すること。

・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

・区切り記号を“,”（0x2C）に変えたい場合。

文字列の長さは１文字であるため、ｎ１＝０、ｎ２＝１となり、文字列（ｄａｔａｈ）は“,”（2Cｈ）で、コマンドは以下のようになる。

ˆ　Ｓ　Ｓ　０　１　，（５Ｅｈ　５３ｈ　５３ｈ　３０ｈ　３１ｈ　2Cｈ）

＾ＴＳ テンプレート選択設定

【ＡＳＣＩＩ】	＾	Ｔ	Ｓ	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	９４	８４	８３	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	5Ｅ	５４	５３	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎ１：０（固定）
　０≦ｎ２≦９
　０≦ｎ３≦９

【解説】

・本体で選択しているテンプレートを指定番号にする。
　（ｎ２＊１０）＋ｎ３　：テンプレート番号（1～９９）

・本体選択番号のデフォルト値は、１である。

・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

・設定可能なテンプレート番号は、１～９９である。それ以外の数値を設定しようとした場合または本体に転送されていない番号を指定した場合は無効になる。

【例】

・選択テンプレート番号を９９にする場合。
　ｎ２＝9、ｎ３＝9になるため、コマンドは以下のようになる。

＾　Ｔ　Ｓ　０　９　９（5Ｅｈ　５４ｈ　５３ｈ　３０ｈ　３９ｈ　３９ｈ）

＾ＬＳ 改行時の行間設定

【ＡＳＣＩＩ】	＾	Ｌ	Ｓ	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	９４	７６	８３	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	５Ｅ	４Ｃ	５３	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　０≦ｎ１≦２
　　　　　　０≦ｎ２≦９
　　　　　　０≦ｎ３≦９

【解説】

・改行時の行間のドット数を設定する。
　（ｎ１＊１００）＋（ｎ２＊１０）＋ｎ３　：行間ドット数（０～２５５）

・改行時の行間ドット数のデフォルト値は、P-touch Editor でテンプレートを作成したときに決められるドット数である。

【備考】

・行間のドット数は、０～２５５ドットである。それ以外の数値を設定しようとした場合は無効になる。
　１ドット　＝　１／３００インチ
　１ドット　≒　０．０８５mm

【例】

・行間を１０ドットにする場合。
　＾　Ｌ　Ｓ　０　１　０（５Ｅｈ　４Ｃｈ　５３ｈ　３０ｈ　３１ｈ　３０ｈ）

＾ＣＣ プレフィックス文字の変更

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｃ　Ｃ　ｎ
【１０進】　９４　６７　６７　ｎｄ
【１６進】　５Ｅ　４３　４３　ｎｈ
【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　00ｈ≦ｎｈ≦FFｈ

【解説】
・プレフィックス文字コードを変更する。
　ｎ　：文字コード
・プレフィックス文字のデフォルト文字列は“＾”である。
・このコマンドは、動的コマンドである。
【例】
・プレフィックス文字を、“＾”から“＿”に変更したい場合は、下記のようにコマンドを送る。
　＾　Ｃ　Ｃ　5Fｈ（５Ｅｈ　４３ｈ　４３ｈ　５Ｆｈ）
　　　　(“＿”)
　・ただしこれ以降、電源をＯＮ／ＯＦＦしないとプレフィックス文字は“＿”に変更されたままのため、たとえば初期化コマンドを使用するときは、＾ＩＩではなく、＿ＩＩになる。

ˆＲＣ 改行コマンド文字列設定

【ＡＳＣＩＩ】	ˆ	Ｒ	Ｃ	ｎ１	ｎ２	ｄａｔａ
【１０進】	９４	８２	６７	ｎｄ１	ｎｄ２	ｄａｔａｄ
【１６進】	５Ｅ	５２	４３	ｎｈ１	ｎｈ２	ｄａｔａｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　０≦ｎ１≦２
　　　　　　０≦ｎ２≦９
　　　　　　00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・改行コマンドの文字列を設定する。
　（ｎ１＊１０）＋ｎ２　　：文字列の長さ（１～２０まで設定可能）
　　ｄａｔａ　　　　　　　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））

・改行コマンドのデフォルト文字列は“ˆＣＲ”である。

・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

・改行コマンド文字列を“0Dh 0Ah”に変えたい場合。
　設定する文字列（ｄａｔａ）は、２文字であるため、ｎ１＝０、ｎ２＝２
　である。コマンドは以下のようになる。
　ˆ　Ｒ　Ｃ　０　２　０Ｄｈ　０Ａｈ
（５Ｅｈ　５２ｈ　４３ｈ　３０ｈ　３２ｈ　０Ｄｈ　０Ａｈ）

＾ＣＮ コピー印刷枚数設定

【ＡＳＣＩＩ】	＾	Ｃ	Ｎ	ｎ1	ｎ2	ｎ3
【１０進】	94	67	78	ｎｄ1	ｎｄ2	ｎｄ3
【１６進】	5E	43	4E	ｎｈ1	ｎｈ2	ｎｈ3
【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】	0≦ｎ１≦9					
	0≦ｎ２≦9					
	0≦ｎ３≦9					

【解説】

・コピー印刷枚数を設定する。

（ｎ１＊１００）＋（ｎ２＊１０）＋ｎ３　：コピー印刷枚数（バイト）

（1～９９９）

・コピー印刷枚数のデフォルト値は１である。

【備考】

・印刷が終了すると、このコマンドで設定した枚数は、本体に設定されている枚数（静的値）に戻る。

【例】

・コピー印刷枚数を１００枚に変更する場合。ｎ１＝１、ｎ２＝０、ｎ３＝０になるため、コマンドは以下のようになる。

＾　Ｃ　Ｎ　１　０　０（5Ｅh　４3ｈ　４Ｅｈ　３１ｈ　３０ｈ　３０ｈ）

＾ＩＩ 初期化

【ＡＳＣＩＩ】	＾	Ｉ	Ｉ
【１０進】	９４	７３	７３
【１６進】	５Ｅ	４９	４９
【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】	なし		

【解説】

・動的設定値を全て本体設定値に戻す。

１）印刷開始トリガーの選択項目

２）印刷開始コマンドの文字列

３）印刷開始受信文字数

４）区切り記号

５）テンプレート選択番号

６）プレフィックス文字

７）改行コマンド文字列

８）コピー印刷枚数

^ＳＲ ステータスリクエスト

【ＡＳＣＩＩ】　　ˆ　　Ｓ　　Ｒ

【１０進】　　　　９４　８３　８２

【１６進】　　　　５Ｅ　５３　５２

【パラメーター】　なし

【解説】

・プリンターステータスが返信される。

プリンターステータスは３２バイトで構成される。

序数	ｵﾌｾｯﾄ	ｻｲｽﾞ	名称	値/参照
1	0	1	ヘッドマーク	80 Hex 固定
2	1	1	サイズ	20 Hex 固定
3	2	1	「ブラザー」コード	'B' Char（42 Hex）固定
4	3	1	シリーズコード	'6' Char（36 Hex）固定
5	4	1	機種コード	下記参照
6	5	1	国別コード	'0' Char（30 Hex）固定
7	6	1	未使用	00 Hex 固定
8	7	1	未使用	00 Hex 固定
9	8	1	エラー情報１	下記参照
10	9	1	エラー情報２	下記参照
11	10	1	メディア幅	D2 Hex ※１
12	11	1	メディア種類	下記参照
13	12	1	色数	00 Hex 固定
14	13	1	メディア長（上位バイト）	00 Hex 固定
15	14	1	用紙種類判別センサー値	00 Hex 固定
16	15	1	モード	00 Hex 固定
17	16	1	濃度	00 Hex 固定
18	17	1	メディア長（下位バイト）	00 Hex 固定
19	18	1	ステータス種類	下記参照
20	19	1	フェーズ種類	下記参照
21	20	1	フェーズ番号上位バイト	00 Hex 固定
22	21	1	フェーズ番号下位バイト	00 Hex 固定
23	22	1	通知番号	下記参照
24	23	1	拡張部バイト数	00 Hex 固定
25	24	8	未使用	00 Hex 固定

※１：メディアがセットされていなければ、00 Hex になる。

機種コード

機種名	値
PJ-622	‘1’ Char　(31 Hex)
PJ-623	‘2’ Char　(32 Hex)
PJ-662	‘3’ Char　(33 Hex)
PJ-663	‘4’ Char　(34 Hex)

エラー情報１

フラグ	マスク	意味
Bit 0	0x01	未使用
Bit 1	0x02	メディア終了
Bit 2	0x04	未使用
Bit 3	0x08	バッテリエンプティ
Bit 4	0x10	未使用
Bit 5	0x20	未使用
Bit 6	0x40	未使用
Bit 7	0x80	未使用

エラー情報２

フラグ	マスク	意味
Bit 0	0x01	未使用
Bit 1	0x02	未使用
Bit 2	0x04	未使用
Bit 3	0x08	未使用
Bit 4	0x10	未使用
Bit 5	0x20	未使用
Bit 6	0x40	未使用
Bit 7	0x80	未使用

メディア種類

メディア種類	値	備考
なし	00 Hex	メディアなし
あり	01 Hex	メディアあり

ステータス種類

ステータス種類	値
ステータスリクエストへの返信	00 Hex
印字終了	01 Hex
エラー発生	02 Hex
通知	05 Hex
フェーズチェンジ	06 Hex

フェーズ種類

フェーズ種類	値
エディット	00 Hex
通常印刷	01 Hex

通知番号

通知	値
無効（通知なし）	00 Hex
クーリング開始	03 Hex
クーリング終了	04 Hex

＾Ｖ Ｒ バージョン情報取得

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｖ　Ｒ

【１０進】　９４　８６　８２

【１６進】　５Ｅ　５６　５２

【パラメーター】　なし

【解説】

・本体のバージョン情報を１６文字の文字列で取得する。

＾ＣＲ オブジェクト内での改行

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｃ　Ｒ

【１０進】　９４　６７　８２

【１６進】　５Ｅ　４３　５２

【パラメーター】　なし

【解説】

・テキストオブジェクトで次の行に改行する。

・改行コマンド文字列を変更しても有効である。

【例】

・３行印刷させたい場合。

１　＾　Ｃ　Ｒ　２　＾　Ｃ　Ｒ　３　＾　Ｆ　Ｆ

（３１ｈ　５Ｅｈ　４３ｈ　５２ｈ　３２ｈ　５Ｅｈ　４３ｈ　５２ｈ　３３ｈ

５Ｅｈ　４６ｈ　４６ｈ）

印刷結果

1
2
3

＾ＯＳ オブジェクト選択設定（オブジェクト番号）

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｏ　Ｓ　ｎ１　ｎ２　ｎ３
【１０進】　９４　７９　８３　ｎｄ１　ｎｄ２　ｎｄ３
【１６進】　５Ｅ　４Ｆ　５３　ｎｈ１　ｎｈ２　ｎｈ３
【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　０≦ｎ１≦２
　０≦ｎ２≦９
　０≦ｎ３≦９

【解説】
・オブジェクト番号から対象オブジェクトを選択する。
　（ｎ１＊１００）＋（ｎ２＊１０）＋ｎ３ ：オブジェクト番号（１～２００）

【備考】
・設定可能なオブジェクト番号は、１～２００である。それ以外の数値を設定しようとした場合は無効になる。
・途中のオブジェクトからデータを挿入したい場合にこのコマンドを使用する。

【例】
・３３オブジェクト目を選択する場合。
　＾　Ｏ　Ｓ　０　３　３（5Ｅｈ　４Ｆｈ　５３ｈ　３０ｈ　３３ｈ　３３ｈ）

＾ＯＮ オブジェクト選択設定（オブジェクト名）

【ＡＳＣＩＩ】　＾　Ｏ　Ｎ　ｄａｔａ　００
【１０進】　９４　７９　７８　ｄａｔａｄ　００
【１６進】　５Ｅ　４Ｆ　４Ｅ　ｄａｔａｈ　００
【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　なし

【解説】
・オブジェクト名から対象オブジェクトを選択する。
　ｄａｔａ　：　文字列（オブジェクト名）

【備考】
・設定可能な文字列の最大長さは、２０バイトである。それ以上の長さを指定した時は、コマンドが無効になる（オブジェクト登録一番を選択する）。また、文字列がない場合やオブジェクト名が一致しなかった場合も同様である。
（半角の場合１バイト、全角の場合２バイトである。）
・文字列の後ろには、００ｈをつけること。文字列の終了を意味する。
・途中のオブジェクトからデータを挿入したい場合にこのコマンドを使用する。

【例】
・オブジェクト名が“TEXT1”のオブジェクトを選択する場合。
　＾　Ｏ　Ｎ　Ｔ　Ｅ　Ｘ　Ｔ　１　００ｈ
　（５Ｅｈ　４Ｆｈ　４Ｅｈ　５４ｈ　４５ｈ　５８ｈ　５４ｈ　３１ｈ　００ｈ）

＾ＤＩ オブジェクト直接挿入

【ＡＳＣＩＩ】	＾	Ｄ	Ｉ	ｎ１	ｎ２	ｄａｔａ
【１０進】	９４	６８	７３	ｎｄ１	ｎｄ２	ｄａｔａｄ
【１６進】	５Ｅ	４４	４９	ｎｈ１	ｎｈ２	ｄａｔａｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　00ｈ≦ｎｈ１≦FFｈ
　　　　　　00ｈ≦ｎｈ２≦FEｈ

【解説】

・選択されているテンプレートの選択されているオブジェクトに指定文字数分、文字列を挿入する。（途中に印刷コマンド、区切り記号がきても、指定文字数内ならデータとして扱う）

（ｎｈ２＊２５６）＋ｎｈ１　：指定文字数（バイト）
ｄａｔａ　：文字列

【例】

・Ａが印刷開始文字列に設定されていて、印刷開始トリガーを印刷開始文字列に設定してある場合、手軽にＡを印刷したい場合に、下記のコマンドで印刷を実行する。

＾　Ｄ　Ｉ　０３ｈ　００ｈ　１　Ａ　２　Ａ
（５Ｅｈ　４４ｈ　４９ｈ　０３ｈ　００ｈ　３１ｈ　４１ｈ　３２ｈ　４１ｈ）

印刷結果

１Ａ２

ＥＳＣ　ｉａ　コマンドモード設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	ａ	ｎ
【１０進】	２７	１０５	９７	ｎｄ
【１６進】	１Ｂ	６９	６１	ｎｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ＝00ｈ 01ｈ 03ｈ 30ｈ 31ｈ 33ｈ

【解説】

・モードの切り替えをする。

ｎｈ＝00ｈまたは30ｈ　：ＥＳＣ／Ｐモード・ラスターモード（デフォルト）
ｎｈ＝01ｈまたは31ｈ　：メンテナンスモード
ｎｈ＝03ｈまたは33ｈ　：P-touch Template モード

・このコマンドは、動的コマンドである。

【備考】

設定可能値以外の値を設定しようとすると、ＥＳＣ／Ｐモード・ラスターモードになる。

ＥＳＣ　ｉＸＴ２　印刷開始トリガー選択の設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｔ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	２７	１０５	８８	８４	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	５４	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１　＝　01ｈ（固定）

ｎｈ２　＝　00ｈ（固定）

00ｈ≦ｎｈ3≦02ｈ

【解説】

・印刷開始トリガーの種類を選択する。

ｎｈ３＝00ｈ　：設定されている文字列受信時（デフォルト）

ｎｈ３＝01ｈ　：全てのオブジェクトが埋まったとき

（最後のデータ後の区切り記号で印刷）

ｎｈ３＝02ｈ　：設定されている文字数受信時

（区切り記号は、含まれない）

・このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

・ｎｈ3が00ｈ～02ｈ以外の値の場合は無効になる。

【例】

・印刷開始トリガーを“全てのオブジェクトが埋まったとき”にする場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｔ　２　０１ｈ　００ｈ　０１ｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　５４ｈ　３２ｈ　０１ｈ　００ｈ　０１ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸＰ２　印刷開始コマンド文字列設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｐ	２	ｎ１	ｎ２	ｄａｔａ
【１０進】	２７	１０５	８８	８０	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｄａｔａｄ
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	５０	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｄａｔａｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　01ｈ≦ｎｈ１≦14ｈ
ｎｈ２：00ｈ（固定）
00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・印刷開始コマンドの文字列を設定する。

ｎｈ１＋(ｎｈ２＊２５６)：文字列の長さ（１～２０まで設定可能）

ｄａｔａ　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））

・印刷開始コマンドのデフォルト文字列は“＾ＦＦ”である。

・このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

・印刷開始コマンド文字列を“START”に変えたい場合。

設定する文字列（ｄａｔａ）は“START”と、5文字であるため、ｎｈ１＝05ｈ、ｎｈ２＝00ｈである。コマンドは以下のようになる。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｐ　２　０５ｈ　００ｈ　Ｓ　Ｔ　Ａ　Ｒ　Ｔ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　５０ｈ　３２ｈ　０５ｈ　００ｈ　５３ｈ　５４ｈ
４１ｈ　５２ｈ　５４ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸｒ２　印刷開始受信文字数設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｒ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３	ｎ４
【１０進】	２７	１０５	８８	１１４	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３	ｎｄ４
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	７２	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３	ｎｈ４

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：02ｈ（固定）
ｎｈ２：00ｈ（固定）
00ｈ≦ｎｈ３≦FFｈ
00ｈ≦ｎｈ４≦03ｈ

【解説】

・印刷開始受信文字数を設定する。
ｎｈ３＋（ｎｈ４＊２５６）　：印刷開始受信文字数（バイト）（１～９９９）

・印刷開始受信文字数のデフォルト値は１０である。

・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

・印刷受信文字数を１００文字に変更する場合。ｎｈ３＝64ｈ、ｎｈ４＝00ｈになるため、コマンドは以下のようになる。
ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｒ　２　０２ｈ　００ｈ　６４ｈ　００ｈ
（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　７２ｈ　３２ｈ　０２ｈ　００ｈ　６４ｈ　００ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸＤ２　区切り記号指定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｄ	２	ｎ１	ｎ２	ｄａｔａ
【１０進】	２７	１０５	８８	６８	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｄａｔａｄ
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	４４	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｄａｔａｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　01ｈ≦ｎｈ１≦14ｈ
ｎｈ２：00ｈ（固定）
00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・区切り記号とは、データの流し込みを、次のオブジェクトに移行したいときに使う記号。

・区切り記号の文字列を設定する。

ｎｈ１＋（ｎｈ２＊２５６）　：文字列の長さ（１～２０）

ｄａｔａ　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））

・区切り記号のデフォルト文字列は“09ｈ(TAB コード)”である。

・このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

・区切り記号を，（2Cｈ）に変えたい場合。

文字列の長さは１文字で、ｎｈ１＝01ｈ、ｎｈ２＝00ｈとなり、文字列（ｄａｔａｈ）は“,”（2Cｈ）で、コマンドは以下のようになる。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｄ　２　０１ｈ　００ｈ　２Ｃｈ
（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　４４ｈ　３２ｈ　０１ｈ　００ｈ　２Ｃｈ）

ＥＳＣ　ｉＸａ２　読み捨て文字列設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ａ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３	ｄａｔａ
【１０進】	２７	１０５	８８	９７	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３	ｄａｔａｄ
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６１	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３	ｄａｔａｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　01ｈ≦ｎｈ１≦15ｈ
ｎｈ２：00ｈ（固定）
ｎｈ３：01ｈ（固定）
00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・読み捨て文字列を設定する。
ｎｈ１＋（ｎｈ２＊２５６）　：文字列の長さ（０～２０）＋１
ｄａｔａ　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））

・このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

・読み捨て文字列を、“ＡＢＣＤ”にしたい場合。
文字列の長さは４文字で、ｎｈ１＝05ｈ、ｎｈ２＝00ｈとなり、コマンドは以下のようになる。
ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ａ　２　０５ｈ　００ｈ　０１ｈ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ
（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６１ｈ　３２ｈ　０５ｈ　００ｈ　０１ｈ　４１ｈ
４２ｈ　４３ｈ　４４ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸｉ２　コマンドモード設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｉ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	２７	１０５	８８	１０５	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６９	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：01ｈ（固定）
ｎｈ２：00ｈ（固定）
ｎｈ３：00ｈ 01ｈ 03ｈ

【解説】
・モードの切り替えをする。
ｎｈ３＝00ｈ　：ＥＳＣ／Ｐモード・ラスターモード（デフォルト）
ｎｈ３＝01ｈ　：メンテナンスモード
ｎｈ３＝03ｈ　：P-touch Template モード
・このコマンドは、静的コマンドである。
【備考】
設定可能値以外の値を設定しようとすると、無効になる。

ＥＳＣ　ｉＸｎ２ テンプレート選択設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｎ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	２７	１０５	８８	１１０	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６Ｅ	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：01ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

01ｈ≦ｎｈ３≦63ｈ

【解説】

・本体で選択しているテンプレートを指定番号にする。

ｎ３　：テンプレート番号（１～９９）

・本体選択番号のデフォルト値は、１である。

・このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

・設定可能なテンプレート番号は、１～９９である。それ以外の数値を設定しようとした場合または、本体に転送されていない番号を指定した場合は無効になる。

【例】

・選択テンプレート番号を９９にする場合。

ｎｈ３＝63ｈになるため、コマンドは以下のようになる。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｎ　２　０１ｈ　００ｈ　６３ｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６Ｅｈ　３２ｈ　０１ｈ　００ｈ　６３ｈ）

ＥＳＣ ｉＸｆ２ プレフィックス文字の変更

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｆ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	２７	１０５	８８	１０２	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６６	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【パラメーター】 ｎｈ１：01ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

00ｈ≦ｎｈ３≦FFｈ

【解説】

・プレフィックス文字コードを変更する。

ｎ３ ：文字コード

・プレフィックス文字のデフォルト文字列は“＾”である。

・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

・プレフィックス文字を、“＿”に変更したい場合。

ＥＳＣ ｉ Ｘ ｆ ２ ０１ｈ ００ｈ ５Ｆｈ（“＿”）

（１Ｂｈ ６９ｈ ５８ｈ ６６ｈ ３２ｈ ０１ｈ ００ｈ ５Ｆｈ）

ＥＳＣ　ｉＸｊ２ 国際文字設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｊ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	２７	１０５	８８	１０６	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６Ａ	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：01ｈ（固定）
ｎｈ２：00ｈ（固定）
00ｈ≦ｎｈ3≦0Dｈ、40ｈ

【解説】

・各国別の文字セットを選択し、ｎｈ３の値によりコード表の一部文字コードが切替わる。

ｎｈ３＝00ｈ　：ＵＳＡ
ｎｈ３＝01ｈ　：フランス
ｎｈ３＝02ｈ　：ドイツ
ｎｈ３＝03ｈ　：イギリス
ｎｈ３＝04ｈ　：デンマーク
ｎｈ３＝05ｈ　：スウェーデン
ｎｈ３＝06ｈ　：イタリア
ｎｈ３＝07ｈ　：スペイン
ｎｈ３＝08ｈ　：日本
ｎｈ３＝09ｈ　：ノルウェー
ｎｈ３＝0Aｈ　：デンマークⅡ
ｎｈ３＝0Bｈ　：スペインⅡ
ｎｈ３＝0Cｈ　：ラテンアメリカ
ｎｈ３＝0Dｈ　：韓国
ｎｈ３＝40ｈ　：リーガル

・切替わるコードは、以下の１２コードである。

23ｈ　24ｈ　40ｈ　5Bｈ　5Cｈ　5Dｈ　5Eｈ　60ｈ　7Bｈ　7Cｈ　7Dｈ　7Eｈ

（切替わる文字に関しては、国際文字セット表参照のこと）

・初期設定は、＜海外＞ｎｈ３＝00ｈ（ＵＳＡ）、＜日本＞ｎｈ３＝08ｈ（日本）。

・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

・国際文字設定を日本に変える場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｊ　２　０１ｈ　００ｈ　０８ｈ
（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６Ａｈ　３２ｈ　０１ｈ　００ｈ　０８ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸＲ２　改行コマンド文字列設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｒ	２	ｎ１	ｎ２	ｄａｔａ
【１０進】	２７	１０５	８８	８２	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｄａｔａｄ
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	５２	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｄａｔａｈ

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　01ｈ≦ｎｈ１≦14ｈ
ｎｈ２：00ｈ（固定）
00ｈ≦ｄａｔａｈ≦FFｈ

【解説】

・改行コマンドの文字列を設定する。
ｎｈ１＋(ｎｈ２＊２５６)：文字列の長さ（１～２０まで設定可能）
ｄａｔａ　：文字列（設定可能最大文字数は２０文字（バイト））

・改行コマンドのデフォルト文字列は“＾ＣＲ”である。

・このコマンドは、静的コマンドである。

【備考】

・２０文字を超える文字を設定しようとした場合は無効。

【例】

・改行コマンド文字列を“０Ｄｈ　０Ａｈ”に変えたい場合。
設定する文字列（ｄａｔａ）は、２文字であるため、ｎｈ１＝02ｈ、
ｎｈ２＝00ｈである。コマンドは以下のようになる。
ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｒ　２　０２ｈ　００ｈ　０Ｄｈ　０Ａｈ
（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　５２ｈ　３２ｈ　０２ｈ　００ｈ　０Ｄｈ　０Ａｈ）

ＥＳＣ　ｉＸＣ２　コピー印刷枚数設定

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｃ	２	ｎ１	ｎ２	ｎ３	ｎ４
【１０進】	２７	１０５	８８	６７	５０	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３	ｎｄ４
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	４３	３２	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３	ｎｈ４

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：02ｈ（固定）
ｎｈ２：00ｈ（固定）
00ｈ≦ｎｈ３≦FFｈ
00ｈ≦ｎｈ４≦03ｈ

【解説】

・コピー印刷枚数を設定する。
ｎｈ３＋（ｎｈ４＊２５６）　：コピー印刷枚数（バイト）（１～９９９）
・コピー印刷枚数のデフォルト値は１である。
・このコマンドは、静的コマンドである。

【例】

・コピー印刷枚数を１００枚に変更する場合。ｎｈ３＝64ｈ、ｎｈ４＝00ｈになるため、
コマンドは以下のようになる。
ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｃ　２　０２ｈ　００ｈ　６４ｈ　００ｈ
（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　４３ｈ　３２ｈ　０２ｈ　００ｈ　６４ｈ　００ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸＴ１　印刷開始トリガー選択項目取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｔ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	８４	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	５４	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１　＝　00ｈ（固定）
　　　　　　ｎｈ２　＝　00ｈ（固定）

【解説】

・印刷開始トリガーを３バイトのデータで返信する。

[1]：01ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3]：設定値

00ｈ　：設定されている文字列受信時

01ｈ　：全てのオブジェクトが埋まったとき

02ｈ　：設定されている文字数受信時

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・本体に設定されている、印刷開始トリガーを取得する。設定値が、設定されている文字列受信時の場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｔ　１　００ｈ　００ｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　５４ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）

本体からは、０１ｈ　００ｈ　００ｈが返信される。

ＥＳＣ　ｉＸＰ１　印刷開始コマンド設定文字列取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｐ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	８０	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	５０	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）
　　　　　　ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・印刷開始コマンドの設定文字列を取得する。

・本体から、３～２２バイトのデータが返信される。（文字列の長さにより変化する）
 [1、2]：ｎｈ１　ｎｈ２（文字数）　ｎｈ１＋（ｎｈ２＊２５６）
 [3 以降]：文字列

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・印刷開始コマンド文字列を“START”に設定している場合。
 ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｐ　１　００ｈ　００ｈ（1Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　５０ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを送信すると、 本体からは、０５ｈ　００ｈ　Ｓ　Ｔ　Ａ　Ｒ　Ｔ（０5ｈ　００ｈ　５３ｈ　５４ｈ　４１ｈ　５２ｈ　５４ｈ）と返信される。

ＥＳＣ　ｉＸｒ１　印刷開始受信文字数取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｒ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	１１４	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	７２	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）

ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・印刷開始受信設定文字数を取得する。

・本体からは、４バイトのデータが返信される。

[1]：02ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3、4]：ｎｈ３　ｎｈ４設定値

ｎｈ３＋（ｎｈ４＊２５６）　：印刷開始受信文字数

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・印刷受信文字数が５００文字の場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｒ　１　００ｈ ００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　７２ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを本体に送信すると、０２ｈ　００ｈ　Ｆ４ｈ　０１ｈが返信される。244(F4ｈ)+(1(01ｈ)＊256)=500 文字である。

ＥＳＣ　ｉＸＤ１　区切り記号取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｄ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	６８	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	４４	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）
ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・区切り記号の設定文字列を取得する。

・本体から、３～２２バイトのデータが返信される。（文字列の長さにより変化する）

[1、2]：ｎｈ１　ｎｈ２（文字数）　ｎｈ１＋（ｎｈ２＊２５６）

[3 以降]：文字列

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・区切り記号を，（2Cｈ）に設定している場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｄ　１　００ｈ　００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　４４ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを本体に送信する。

本体からは、０１ｈ　００ｈ　，（０１ｈ　００ｈ　２Ｃｈ）が返信される。

ＥＳＣ　ｉＸａ１　読み捨て設定文字列取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ａ	１	ｎ１	ｎ２	ｎ３
【１０進】	２７	１０５	８８	９７	４９	ｎｄ１	ｎｄ２	ｎｄ３
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６１	３１	ｎｈ１	ｎｈ２	ｎｈ３

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：01ｈ（固定）
ｎｈ２：00ｈ（固定）
ｎｈ３：01ｈ（固定）

【解説】
・読み捨て設定文字列を取得する。
・本体から、２～２２バイトのデータが返信される。(文字列の長さにより変化する)
[1、2]：ｎｈ１　ｎｈ２（文字数）　ｎｈ１＋（ｎｈ２＊２５６）
[3 以降]：文字列
・取得値は、静的コマンドで設定した値である。
【例】
・読み捨て文字列が、“ＡＢＣＤ”の場合。
本体に以下のコマンドを送信する。
ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ａ　１　０１ｈ　００ｈ　０１ｈ
（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６１ｈ　３１ｈ　０１ｈ　００ｈ　０１ｈ）
本体からは、以下のように返信される。
０４ｈ　００ｈ　Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ（０４ｈ　００ｈ　４１ｈ　４２ｈ　４３ｈ　４４ｈ）

ＥＳＣ　ｉＸｉ１　コマンドモード設定値取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｉ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	１０５	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６９	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）
　　　　　　ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・コマンドモードの設定値を取得する。

・本体からは、３バイトのデータが返信される。

[1]：01ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3]：設定値

00ｈ　：ＥＳＣ／Ｐモード・ラスターモード

01ｈ　：メンテナンスモード

03ｈ　：P-touch Template モード

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

設定値をラスターモードにしてある場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｉ　１　００ｈ　００ｈ

（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６９ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）

本体からは、以下のように返信される。

０１ｈ　００ｈ　００ｈ

ＥＳＣ　ｉＸｎ１ テンプレート選択番号取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｎ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	１１０	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６Ｅ	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）
　　　　　　ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・本体で選択しているテンプレート番号を取得する。

・本体からは、３バイトのデータが返信される。

[1]：01ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3]：設定値

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・選択テンプレート番号が９９の場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｎ　１　００ｈ　００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６Ｅｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）と本体に送ると、本体からは以下のように返信される。

０１ｈ　００ｈ　６３ｈ

ＥＳＣ　ｉＸｊ１ 国際文字設定値取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｊ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	１０６	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６Ａ	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）
　　　　　　ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・国際文字設定値を取得する。

・本体からは、３バイトのデータが返信される。

[1]：01ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3]：設定値

00ｈ	：ＵＳＡ
01ｈ	：フランス
02ｈ	：ドイツ
03ｈ	：イギリス
04ｈ	：デンマーク
05ｈ	：スウェーデン
06ｈ	：イタリア
07ｈ	：スペイン
08ｈ	：日本
09ｈ	：ノルウェー
0Aｈ	：デンマークⅡ
0Bｈ	：スペインⅡ
0Cｈ	：ラテンアメリカ
0Dｈ	：韓国
40ｈ	：リーガル

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・国際文字設定を＜日本＞にしている場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｊ　１　００ｈ　００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６Ａｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを本体に送信すると、本体からは以下のように返信される。

０１ｈ　００ｈ　０８ｈ

ＥＳＣ　ｉＸｆ１ プレフィックス文字の取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	ｆ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	１０２	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	６６	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【パラメーター】　ｎｈ１：00ｈ（固定）
　　　　　　　　　ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・プレフィックス文字コードを取得する。

・本体からは、３バイトのデータが返信される。

[1]：01ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3]：設定文字

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・プレフィックス文字を、“_”に設定している場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　ｆ　１　００ｈ　００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　６６ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）を本体に送信すると、本体からは以下のように返信される。

０１ｈ　００ｈ　５Ｆｈ
　　　　　　(“_”)

ＥＳＣ　ｉＸＲ１　改行コマンド設定文字列取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｒ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	８２	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	1B	６９	５８	５２	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）

　　　　　　ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・改行コマンドの設定文字列を取得する。

・本体から、２～２２バイトのデータが返信される。（文字列の長さにより変化する）

[1、2]：ｎｈ１　ｎｈ２（文字数）　ｎｈ１＋（ｎｈ２＊２５６）

[3 以降]：文字列

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・改行コマンド文字列を“０Ｄｈ　０Ａｈ”に設定している場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｒ　１　００ｈ　００ｈ（1Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　５２ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを送信すると、 本体からは、０２ｈ　００ｈ　０Ｄｈ　０Ａｈと返信される。

ＥＳＣ　ｉＸＣ１　コピー印刷枚数設定値取得

【ＡＳＣＩＩ】	ＥＳＣ	ｉ	Ｘ	Ｃ	１	ｎ１	ｎ２
【１０進】	２７	１０５	８８	６７	４９	ｎｄ１	ｎｄ２
【１６進】	１Ｂ	６９	５８	４３	３１	ｎｈ１	ｎｈ２

【ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ】　ｎｈ１：00ｈ（固定）
　　　　　　ｎｈ２：00ｈ（固定）

【解説】

・コピー印刷設定枚数を取得する。

・本体からは、４バイトのデータが返信される。

[1]：02ｈ（固定）

[2]：00ｈ（固定）

[3、4]：ｎｈ３　ｎｈ４設定値

ｎｈ３＋（ｎｈ４＊２５６）　　：コピー枚数

・取得値は、静的コマンドで設定した値である。

【例】

・コピー印刷設定枚数が５００枚の場合。

ＥＳＣ　ｉ　Ｘ　Ｃ　１　００ｈ ００ｈ（１Ｂｈ　６９ｈ　５８ｈ　４３ｈ　３１ｈ　００ｈ　００ｈ）のコマンドを本体に送信すると、０２ｈ　００ｈ　Ｆ４ｈ　０１ｈが返信される。244(F4ｈ)+(1(01ｈ)＊256)=500 文字である。

文字コード

日本 文字コード表

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0			SP	0	@	P	`	p	–		SP	ー	タ	ミ		
1			!	1	A	Q	a	q			。	ア	チ	ム		
2			”	2	B	R	b	r			「	イ	ツ	メ		
3			#	3	C	S	c	s			」	ウ	テ	モ		
4			$	4	D	T	d	t			、	エ	ト	ヤ		
5			%	5	E	U	e	u			・	オ	ナ	ユ		
6			&	6	F	V	f	v			ヲ	カ	ニ	ヨ		
7			’	7	G	W	g	w			ァ	キ	ヌ	ラ		
8			(	8	H	X	h	x			ィ	ク	ネ	リ		
9			)	9	I	Y	i	y			ゥ	ケ	ノ	ル		
A			*	:	J	Z	j	z			ェ	コ	ハ	レ		
B			+	;	K	[	k	{			ォ	サ	ヒ	ロ		
C			,	<	L	¥	l	|			ャ	シ	フ	ワ		
D			-	=	M	]	m	}			ュ	ス	ヘ	ン		
E			.	>	N	^	n	~			ョ	セ	ホ	゛		
F			/	?	0	_	o	DEL			ッ	ソ	マ	゜		

“■” は、国際文字セットを切り替えると文字コードが切り替わります。

国際文字セット表

Compatible characters in each language when the international character set is switched

n		23	24	40	5B	5C	5D	5E	60	7B	7C	7D	7E
0	United States	#	$	@	[	\	]	^	`	{	|	}	~
1	France	#	$	à	°	ç	§	^	`	é	ù	è	¨
2	Germany	#	$	§	Ä	Ö	Ü	^	`	ä	ö	ü	ß
3	Britain	£	$	@	[	\	]	^	`	{	|	}	~
4	Denmark I	#	$	@	Æ	Ø	Å	^	`	æ	ø	å	~
5	Sweden	#	¤	É	Ä	Ö	Å	Ü	é	ä	ö	å	ü
6	Italy	#	$	@	°	\	é	^	ù	à	ò	è	ì
7	Spain I	Pt	$	@	¡	Ñ	¿	^	`	¨	ñ	}	~
8	Japan	#	$	@	[	¥	]	^	`	{	|	}	~
9	Norway	#	¤	É	Æ	Ø	Å	Ü	é	æ	ø	å	ü
10	Denmark II	#	$	É	Æ	Ø	Å	Ü	é	æ	ø	å	ü
11	Spain II	#	$	á	¡	Ñ	¿	é	`	í	ñ	ó	ú
12	Latin America	#	$	á	¡	Ñ	¿	é	ü	í	ñ	ó	ú
13	Korea	#	$	@	[	₩	]	^	`	{	|	}	~
64	Legal	#	$	§	°	´	"	¶	`	©	®	†	™